

南部ひとまもり・まちまもり協議会
地域ビジョン【概要版】

令和7年3月



南部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。この度、南部ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

南部地区の歴史と伝統をまもり、
住み続けたいまちへ

南部ひとまもり・まちまもり協議会の
目指す地域づくり

本協議会は、まちの将来を考えながら、課題の解決に地域全体で取り組む組織として活動してきました。発足時からさまざまな取り組みを行い、南地区と浜脇地区の連帯感が生まれ、南部地区として将来を考える体制が整ってきました。一方で、にぎわいのあった楠銀天街のアーケード撤去など、協議会の活動も時代に合わせた変化を加えながら、より一層力を入れていく必要があります。

地域を未来につないでいくためには、協議会の活動に参加する若い世代を増やし、将来的にその中心を担う人材を育成することが必要です。また、新たに地域に住む人々が、このまちに親しみを持てるような取り組みも重要となってきます。

南部地区ならではの大切な歴史と伝統をまもり、持続する取り組みを続けながら、時代に即した変化も柔軟に受け入れ、子どもから高齢者まで誰もが住み続けたいまちを目指して活動していきます。

■ひとまもり・まちまもり協議会とは

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

地域ビジョン策定について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施しました。南部ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題についての整理を行い、活動するうえでの活動目標と活動方針を整理しました。

■ 南部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

活動目標①	自らの手でまちづくりができる組織づくり
求められていること	●活動に参加しやすいよう間口を広くする ●さまざまな人(業種や世代)の情報交換の場となる組織にする ●参加することで自らまちづくりができる組織にする ●企業、協力団体、個人の連携を強化する
活動方針	多様な業種や世代の人が気軽に参加できる組織にします。

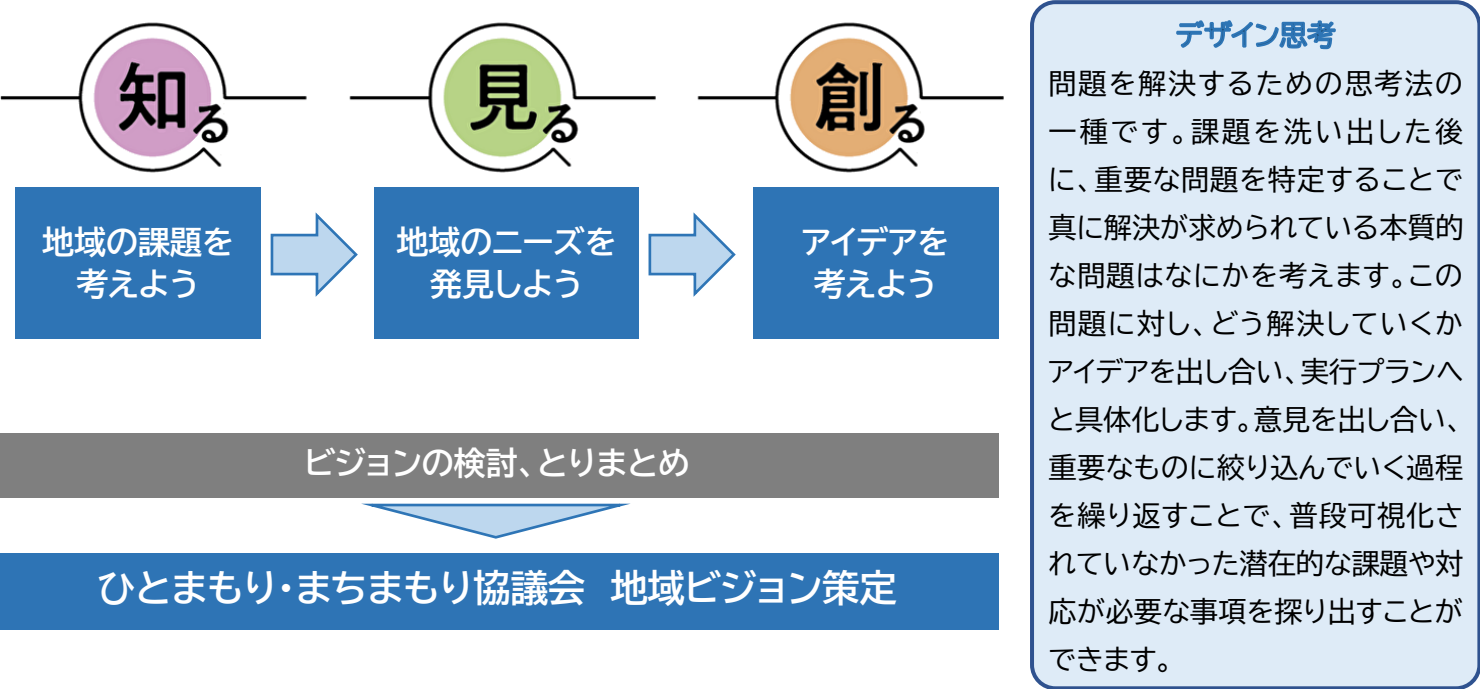
活動目標②	子どもから高齢者まで世代を超えて活躍できる地域づくり
求められていること	●子どもと大人の交流の機会をつくる ●若者が中心的役割で活躍できる場をつくる ●子どもや若者が地域になじみを持ってくれるような取り組みを実施する ●外に出かける機会をつくる
活動方針	子どもから高齢者まで、ともに地域づくりに参画し、世代間ギャップを解消します。

活動目標③	より効果的な情報発信
求められていること	●多様な情報発信手段の検討を行う ●届けたい人に届く新たな方法を検討する ●協議会への参加のきっかけとなる情報発信を行う ●住民の声を集め、知りたい情報を発信する
活動方針	デジタルの活用など、新たな情報発信方法を検討します。多くの住民の意見を取り入れるためにも、情報発信を通して幅広い世代の参加を促していきます。

活動目標④	住民にも来訪者にも魅力的なまちづくり
求められていること	●時代の変化に合わせた取り組みの見直しを行う ●昔ながらの風景を大切にしたい取り組みをする ●温泉や商店街を綺麗にしてまちづくりに役立てる ●空き地や空き家を有効活用し、活気のあるまちにする
活動方針	昔からあり、これからも残したいものを大切に、まちの魅力を住民にも来訪者にも伝えるための取り組みを実施します。楠銀天街の活性化を行うとともに、地元住民が安心して生活できる環境を整えます。

課題解決ワークショップの開催について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



「課題解決ワークショップ」で出た主な意見

第1回

知る

ワークショップの中で南部地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題は何なのかを考えました。

キーワード：若い世代、交流	
実際の意見	●若い世代が興味を持つような取り組みが必要 ●人とのつながりが希薄になっている ●子ども会活動の減少 ●高齢者と若い世代や新しい住民との交流がない
キーワード：組織体制	
実際の意見	●活動の中心になっている人が限られている ●新たな人材へ役職の移行が難しい ●マンション住民の参加が少ない
キーワード：交通	
実際の意見	●車の乗り入れが多く、危ない ●子どもが通りにくい場所がある ●入り組んだ住宅街が多い ●空き地が駐車場になることが多く、危険箇所が変わった
キーワード：情報発信	
実際の意見	●県外や市外への発信の仕方がわからない、発信手段が少ない ●イベントPRなど、情報発信方法の改善が必要 ●おひさまパークでの活動をさらに増やす ●町内の掲示板の活用
キーワード：行事、イベント	
実際の意見	●町内での行事が少なくなった ●来てもらえるようなイベントをつくる必要がある ●祭りを中心として連携する
キーワード：楠銀天街	
実際の意見	●土地の所有者と建物の所有者が違う、所有者の理解が得られず土地が有効活用できていない ●空き家の有効活用方法がわからない ●足並みがそろわない

南部ひとまもり・まちまもり協議会の概要

地区の基本情報

設立	令和元年6月1日
事務所	別府市立田町7番22号 おひさまパーク内
構成団体	自治会(南・浜脇27自治会)、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、青少年育成協議会、南地区婦人会、浜脇野菊の会、浜脇母親クラブ、体育協会、小学校、中学校、南小学校PTA、地区公民館、地域包括支援センター、おひさまパーク、消防団、はまRUN会、温泉団体、南部交番、BEPPU PROJECT
該当地区	楠町、秋葉町、末広町、千代町、浜町、松原町、南町、立田町、朝見一丁目2区、浜脇一丁目、浜脇二丁目、浜脇三丁目、両郡橋、山家、赤松、浦田、田の口、河内、鳥越、柳、古賀原、内成
面積	約 14.67 km ²
人口	南部地区全体: 7,113 人 15 歳未満: 525 人 15～64 歳: 3,388 人 65 歳以上: 3,200 人 (令和6年7月末現在)
高齢化率	44.9%

〔別府市内図〕

第2回

見る

南部地区が目指すべき姿を考えました。

第3回

創る

南部地区が実際に取り組みたいアイデアを出し合いました。

